

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

環境教育ワーキンググループ(第8回)

議事要旨

平成 23 年 10 月 11 日 (火) 14 : 00～16 : 00

釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

【出席者（敬称略）】

環境教育ワーキンググループ構成メンバー

<個人（所属）>

- ・ 神戸忠勝
- ・ 高橋忠一

<団体（出席者）>

- ・ 阿寒国際ツルセンター（河瀬幸）
- ・ 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会（鈴木久枝）
- ・ 釧路市民活動センターわっと（成ヶ澤茂）
- ・ こどもエコクラブくしろ（近藤一燈美）
- ・ 財団法人前田一步園財団（山本光一）

<教育行政関係機関（出席者）>

- ・ 北海道教育庁釧路教育局（会田大祐）
- ・ 釧路市教育委員会（富田義宏）
- ・ 鶴居村教育委員会（新木康司）

<関係行政機関（出席者）>

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所（野口明史）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
（宮本元宗、朝倉基博）
- ・ 釧路市《釧路国際ウェットランドセンター、釧路湿原国立公園連絡協議会》
（菊地義勝）

環境教育ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所（高見沢敏男、竹中康進）
- ・ 財団法人北海道環境財団（久保田学、山本泰志、清水美希）

【議事概要】

〈事務局〉第8回環境教育ワーキンググループ（以下「環境教育WGと表記」）を開催する。

今回初めて参加する委員の方もいるため、最初に簡単に自己紹介の場を持ちたい。

（参加者全員自己紹介）

〈事務局〉資料の確認をしたい。（配布資料の確認）

〈事務局〉進行を高橋座長にお願いする。

議事1 今年度の環境教育ワーキンググループの活動内容について

（以下、高橋座長による進行）

〈高橋座長〉本日は2つの事柄についてお話をしたい。最初に、今年度の活動内容について事務局より説明を求める。

〈事務局〉資料1に基づき説明。2008年に小学校・中学校における湿原を活用した実践事例を集めたガイドブックを刊行し、その後はWEB上で情報を追加更新してきたが、今年度はその後の変化を把握したいと考えている。新学習指導要領の本格施行を受け、紹介事例は継続されているのか、内容に変化はあるのか等についてアンケートにより把握し、WEBで紹介する。また、施設や団体等における学習支援の情報も合わせて掲載しているが、情報が古くなっているものもあると考えられるため、掲載情報の確認を行う。教科学習での湿原の活用に関しては、次の議事で詳しく説明する。さらに、教員向け研修事業を2年前から実施しており、今年度も2回実施した。1回目は7月に茅沼の旧川復元状況をカーヌーで下りながら観察し、公募で6名の参加を得た。2回目は9月に釧路教育研究センターの講座と共催する形で細岡と達古武をフィールドに実施し、20名以上の参加を得た。（スクリーンに写真を映写して研修の状況を説明）資料1-1、1-3に実際の研修の詳しい記録を、資料1-2、1-4に受講者のアンケートを添付した。詳しくは後でご覧いただきたい。参加教員からも好評を得ており、来年度も実施したいと考えている。

〈高橋座長〉実践事例集を作成した際に、釧路管内の学校における釧路湿原の活用状況を調べた。どうすればもっと湿原を活かした環境教育が行われるかを検討したところ、ひとつにはプログラムや協力者についての具体的な情報を蓄積して提供していこうということになった。もう一つは、先生方に湿原を身近な存在として意識していただくために、フィールドを使った研修を実施した。参加した教員からは好評であり、長い時間がかかるが少しずつ効果が出てくるものと考えている。ただし、実施に係る費用や参加定員の制約などの課題もあり今後検討していきたい。今年度はこのように活動してきたが、これを活かして是非来年度も取り組んでいきたい。これらの活動内容について参加委員からご意見をいただきたい。実践事例集を作成したことによって来訪が増えた等はあるか。

〈河瀬委員〉学校からの働きかけはなくはないが、事例集によるものなのか、そのきっかけはわからない。

〈鈴木委員〉学校から会には直接問い合わせなどは来ないが、環境省に要請があったもの

を手伝っている。

〈事務局〉今年の春に実践事例集の成果を把握するため、掲載団体・施設等を対象にアンケート調査を行った。確かにこの事例集を見たことで小学校等からの訪問や問い合わせが増えたという団体等は多いわけではなく、また、何が要因で来訪等があったのか判別できないという回答が多くを占めていた。しかし、少数ではあるが、事例集を見て訪問があったという回答もあった。

〈近藤委員〉実践事例集が学校には配られていてもどこに保管されているのかが問題。先生方は知らないのではないかと思う。研修をもっとやっていただきたいと思うが、新任教師の研修に最初から組み込んでもらえないものか。

〈鈴木委員〉塘路湖エコミュージアムセンターに転勤してきたという教員が来て、いろいろ質問されたことがあった。自分が知らないから子ども達に教えられないとおっしゃっており、意欲のある先生もいる。個人の問題になるのではないかと思う。

〈冨田委員〉初任者研修では地域研修としていくつか講座を担当しており、理科と社会の視点からということで今回の研修を実施した。今回は実は定員を超える応募があったが、講座の質を保ち満足度を下げないためにも、定員を超えた部分をお断りしなければならなかった。釧路市外の先生をお断りすることになってしまったが、管内の町村からも参加希望は多くあり、釧路教育研究所という釧路管内町村教育委員会連絡協議会によって設置されている教育研究機関もあるので、そこに働きかけてみると良い。

〈新木委員〉村内の学校からは環境関係の話はほとんどない。自然の中の村なので、改めて環境をテーマにした学習が主にならないのかも知れない。学校単位では、総合的な学習の時間で温根内ビジターセンターを訪問していることは多い。

〈高橋座長〉釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターではどうか。

〈朝倉委員〉標茶町内では中茶安別小学校は学校林を保有しており、当センターで学習のお手伝いをしている。また、釧路教育局から直接依頼があり、新任の教員を対象に森林環境教育として間伐、枝打ち、カミネッコンなどの体験活動を提供したことがある。こうした研修をきっかけとして、参加教員が学校から児童を連れて来ることを期待している。

〈成ヶ澤委員〉シャケの会では、学校単位でシャケの飼育をお願いし、例年 12 から 13 校が参加している。イオンのクラブからも引き合いがある。わっとでは「魚博士」を今年度も実施するが、こうした情報にアンテナを張っている先生がいる学校からの参加が多い。今回は 18 人の申し込み中 7 人が鶴野小学校からの申し込みがあった。他にも、塘路湖、温根内、春採湖、捕獲場、釧路川等で釣りをを行うというプログラムもある。

〈高橋座長〉学校だけではなく、地域の活動団体などがアクセスしてくることもあるはずである。工夫した PR の方法を今後も検討していきたい。

議事 2 小学校（5，6 年年生）理科・社会における湿原を題材とした学習の検討

〈高橋座長〉議事 2 について事務局から説明を求める。

〈事務局〉資料 2 に基づきから説明。各学校において使用している教科書は学習指導要領

を反映して作成されたものであるため、理科・社会等の教科学習における湿原を題材とした学習の促進を図る際には、教科書での学習内容を基準に考えていくこととなる。このため、前回のワーキングでは、小学校5年生、6年生の理科、社会科の教科書を見ながら各單元における活用のアイデアを参加委員から出していただいた。それらのアイデアを参考に、事務局で再度指導要領等を読み込み、活用される可能性が高い単元を抽出した後、各單元においてワーキンググループで取りまとめる内容の案を資料2-1にまとめた。本日は、資料2下段のアイデア例に示すように①②に相当する作業をみなさんにしていただく。長机2つを合わせたワークスペースを3つ配置しているが、それぞれ「理科5年生」、「理科6年生」、「社会科5,6年生」を対象とするグループとし、具体的に取りまとめる情報と情報の収集方法、情報源等について付箋に記入して模造紙に記載した「とりまとめた内容」の右欄に貼り付けていただきたい。今回出されたアイデアを、可能な範囲でワーキンググループの委員にも参加いただいて情報を収集し、学校に提供できるようにしたい。

〈高橋座長〉関心に応じて3つのテーブルから教科を選び、途中で交代しながら作業をお願いしたい。

- テーブルごとに作業
- テーブル毎の作業状況をシェア

<理科5年>

〈富田委員〉教科書の中で活用していくという視点で話し合った。「メダカの誕生」の單元では、シャケの会、イトウの会などがあり、写真等の資料もある。「天気の変化」の單元では、天気は西から崩れるといった全国的な傾向を学ぶ單元なため、釧路圏の気候にのみスポットを当てるのはそぐわないのではという話になり、後ほど検討するという形で先に進めたが時間切れとなった。「流れる水のはたらき」については様々な資料が集まりそうであるし、写真を撮影していくことも可能。被害を防ぐ試みの紹介については、川があふれて被害が出た経緯から直線化したことを中学年で学ぶので、整理して伝える必要がある。事例の紹介、写真・動画を活用した紹介は出来そうである。

<理科6年>

〈菊地委員〉実験ができると良いが、与えられた單元が少ないので現地見学や工作を行うことは無理だと考え、資料中心でまとめていく前提でアイデア出しを行った。「植物の体のつくりとはたらき」の單元では、山林に降り注ぐ光が植物の生育に与える影響の違いを見ることが考えられる。写真で見て光の入り具合を比較できる直感的な教材があるとよい。写真だけではなく、感光紙などを活用していわゆる日光写真による光の観察で光の差を感覚的に理解させる実験も考えられる。「土地の作りと変化」の單元では、地層やそのでき方がわかる資料を温根内、桂恋、昆布森などで見られる露頭の現場写真で学ぶ。博物館でもこれらの資料の収集はできるのではないかと考えられる。また、本日報告のあった教員研修で行った内容を活用できると良い。検土杖による調査は個々の現場に行かなければならないので難しいので、図化、写真化できると良い。関係機関が持っている資料も活用できる。「生き物と環境」の單元では、湿原の動植物の食物連鎖を資料にできると良い。写真にすると捕食シーンはグロテスクになるし、その瞬間の写真は入手困難なのでイラストの方が良い。湿原と言うことで、タンチョウを食物連鎖の頂

点として使うと良い。人間の生活と自然環境との関係では、実際にシカと交通事故、タンチョウと電線等、野生生物と人間との軋轢の事例は多くある。ロードキルについては開発建設部が情報を持っていると思う。河川の蛇行復元の前後の比較、ヨシズゲがハンノキ林に変わった湿原の写真、伐採と植栽の写真等、対比すれば分かりやすい。これらの資料は環境省でも持っていると思う。

<社会科>

〈近藤委員〉6年生では縄文の暮らしが湿原と関係深い。北斗遺跡や東釧路貝塚、流域に存在するタテ穴式住居跡の訪問体験やマップの活用、土器等の出土物の活用、郷土館や博物館の土器を作る体験などが提案された。マップや資料を集めることも勉強になる。5年生では、国土や産業を学ぶ。釧路では農業は酪農が主だが、今は野菜も作り始めており、昔は阿寒で米を作ってきた。そうした歴史の変化を学べる。資料は農協が一番持っているのではないか。漁業については、教科書ではサケも話題が出てくるが、海と森の関係に気がつき、浜中をはじめ多くの場所で植樹等の取り組みが行われている。調べるとすれば、釧路市内のマリントポス、厚岸の漁協の施設などか。「国土を守る」の単元では、自然再生事業が当てはまり、協議会には資料があるので活用できる。「わたしも自然の一部」では、人との暮らしの接点を扱うこととなり、キラコタンの長谷川先生や宮島岬の宮島さんの暮らしなどが題材となる。郷土史、郷土読本などを見直すとよい。

〈高橋座長〉多くのアイデアを出していただいたが、この中から一つでも二つでも実際にとりまとめて活用されると良い。ここからは参加委員で分担して実際に資料を集める作業に参加していただきたいと思うが如何か。

○ 次のように出されたアイデアを参加委員により分担して情報収集することとなった。(番号は資料2-1に記載した単元ごとに付した番号を、ハイフン以下の数字は単元内の「とりまとめた内容」を示す)

理科5年： ①成ヶ澤委員、②、③-1野口委員、③-2富田委員、③-3宮本委員、③-4成ヶ澤委員

理科6年： ④山本委員、⑤-1鈴木委員、⑤-2菊地委員、⑥-1鈴木委員、⑥-2河瀬委員、⑥-3朝倉委員

社会科： ⑦新木委員、⑩会田委員、⑪神戸委員、⑫近藤委員

〈事務局〉今後のスケジュールを資料2裏面に基づき説明。

その他

〈事務局〉前田一步園財団による阿寒の取り組み事例を情報提供いただく。

〈山本委員〉自然環境保全と学校教育というテーマは、同財団の活動とも共通しており、ネイチャーウォッチングは30年前から行っている。そこから教育大釧路校付属小学校と接点ができ、新聞記事のとおり環境教育合同プロジェクトを立ち上げた。学校教育に自然をどう使っていくかという面では本ワーキンググループと視点は共通。学校においては体験学習に割り当てることが可能な時数が少なく現地での体験学習を行いにくいという課題があるが、同財団ではフィールドでの体験学習を旨としている。A3版の資料は教育大釧路校付属小学校の教員が作成したもので、中段の単元に対して阿寒のフィ

ールドを活用して出来ることをとりまとめたもの。添付の写真は、先般5年生の「流れる水の働き」単元における学習プログラムの実施状況である。水流の測定や水道の説明等、社会の単元も活用して行った。費用と時間がかかり、現状では、同財団と教育大付属小学校だから出来るものであろうが、パイロット的に何が出来るかを考えており、2年生から6年生が全員来て阿寒の森を活用して学んでいる。まずは現場を使ってやってみること。釧路湿原を阿寒と釧路の2つの水系の連携で活用できると良い。

〈事務局〉今回の議論の状況は年内に開催予定の小委員会、協議会でも報告する。次回は1月下旬頃開催したい。以上をもって、第8回環境教育ワーキンググループを閉会する。

以上